

川の水位上昇にご注意ください

～ダムからの放流量を増やして川をリフレッシュ～

独立行政法人水資源機構木津川ダム総合管理所の管理する名張川3ダム（青蓮寺ダム、室生ダム、比奈知ダム）では、梅雨や台風に備えて水位を下げており、この水位低下の操作を利用して、次のとおりダム下流の河川環境に配慮した放流（フラッシュ放流）を実施します。

日 時：平成29年5月11日（木） 午前8:30～午後3:00
実施ダム：青蓮寺ダム、室生ダム、比奈知ダム

今回の放流は、ダムから流下させる水を一時的に増やし、石などに付着した泥や藻類等を剥離させ、河床をリフレッシュすることで、河川に生息する魚などの生物にとって良好な環境への改善を目指す取り組みです。

また、室生ダムでは、昨年度に引き続きフラッシュ放流に合わせて、洪水吐きゲートの点検を予定していますので、当日は（普段あまり見ることのできない）洪水吐きゲートからの放流を実施します。

当日、ダム下流の河川では、ダムの放流により徐々に水位が上昇しますので、十分注意してください。また、当日は放流量の増加に合わせて警報（放送又はサイレン、サイレン疑似音）を鳴らすとともに河川巡視を行います。

取材にお越しの場合は事前に問い合わせ先まで、また当日の状況写真を希望される場合も問い合わせ先までご連絡ください。



平成29年5月2日

独立行政法人 水資源機構 木津川ダム総合管理所

発表記者クラブ

三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブ（三重県）
名張市政記者クラブ
桜井市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 木津川ダム総合管理所 管理課長 丹羽（にわ）
住 所：三重県名張市下比奈知2811-2
電 話：0595（64）8961（代）

青蓮寺ダム・室生ダム・比奈知ダムにおける ダム下流河川環境に配慮した放流について

1. 目的

ダムからの放流による流水の増加によって下流河川内の攪乱を起こすことにより、石などに付着した泥や藻類等を剥離、河床をリフレッシュさせ、藻類の再生を促すことで、河川に生息する魚などの生物にとって良好な環境への改善を目指す目的で、フラッシュ放流という取り組みを行っています。

○ フラッシュ放流の実績

- ・ 比奈知ダム 平成 16 年度～（20回実施）
- ・ 室生ダム 平成 19 年度～（10回実施）
- ・ 青蓮寺ダム 平成 20 年度～（9回実施）

フラッシュ放流に合わせて、下流河川の流れや水質等について調査し、今後のダム下流河川環境に配慮したダム管理を行うための基礎資料を収集します。

また、青蓮寺ダム、比奈知ダムにおいては、フラッシュ放流と同時に、ダム上流に堆積した土砂の一部をダム下流に置き、藻類の剥離効果を向上させる取り組みもあわせて行います。

2. フラッシュ放流の概要

①現況

青蓮寺ダム・室生ダム・比奈知ダムでは、洪水期が始まる6月16日に向けて梅雨や台風に備えて洪水調節の容量を確保するため、洪水貯留準備水位まで、水位を低下させる予定となっております。

今回のフラッシュ放流は、この水位低下操作の一環として行います。

また、室生ダムにおいては、洪水吐きゲート設備の点検をあわせて実施することを計画しており、当日は洪水放流設備を利用してフラッシュ放流を実施する予定としております。

②実施予定日

日時：平成 29 年 5 月 11 日（木）8 時 30 分～15 時 00 分

実施ダム：青蓮寺ダム（最大放流量：毎秒約 30 立方メートル）

室生ダム（最大放流量：毎秒約 30 立方メートル）

比奈知ダム（最大放流量：毎秒約 30 立方メートル）

※ダムからの放流量を徐々に増やしていき、最大放流量は約2時間継続させます。

※フラッシュ放流予定日前後の気象条件等によっては、フラッシュ放流を中止する場合があります。

③調査項目

上名張および大屋戸地点において、以下の項目を調査します。

河川流況調査（水位上昇量、濁度、水温、流況撮影）

3. ダム下流河川の水位の上昇予測について

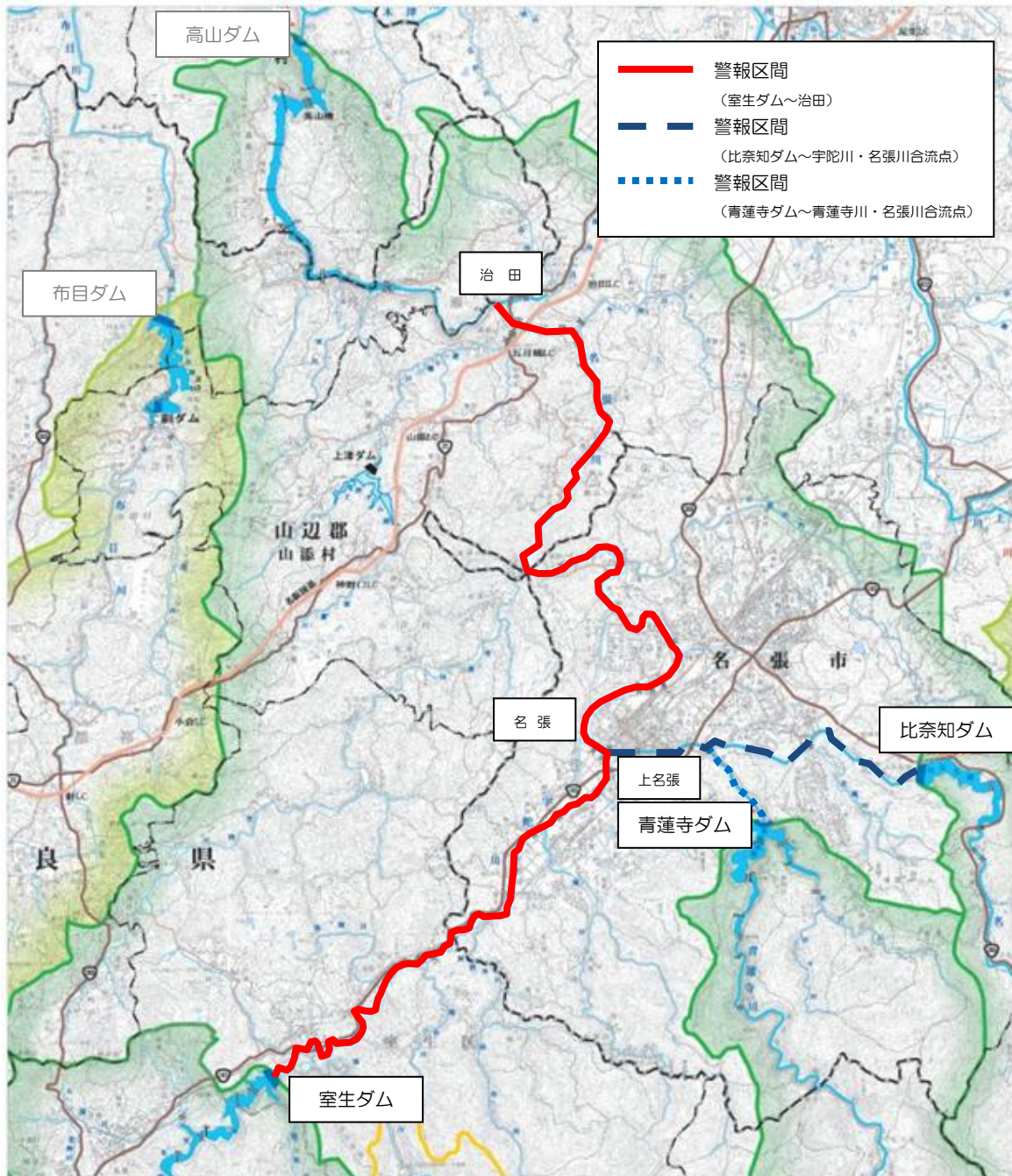
今回のフラッシュ放流によって、ダム下流の名張川では、次のとおり水位が上昇することが予想されますので、注意してください。なお、フラッシュ放流時は河川利用者の安全確保のため、河川巡視を行います。河川利用者の方には、河川から出いただくことをお願いする場合がありますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【5月11日（木）の午後1時から3時頃】

- ・青蓮寺川合流後の鍛冶町橋付近（上名張地点）：最大で約1m上昇
- ・青蓮寺川、宇陀川合流後の名張大橋付近（名張地点）：最大で約1m上昇

4. 警報等の実施について

フラッシュ放流当日は、ダムからの放流量を徐々に増加させるため、安全面に配慮し放流警報（放送、サイレン又はサイレン疑似音を鳴らします。）を行います。



過去の放流前後の河床状況（大屋戸地点）

放流前 H28.4.19



石の表面は茶褐色で細粒な物質（シルト・粘土や付着藻類）に覆われていました。



放流後 H28.5.11



石の表面や河床の礫（れき）が明瞭に見られるようになりました。

過去の放流実施状況



H28.5.10

青蓮寺ダム 約30m³/s放流状況



H28.5.10

室生ダム 約30m³/s放流状況



H28.5.10

比奈知ダム 約30m³/s放流状況

過去の放流実施状況（大屋戸潜水橋地点）



- ダムからはきれいな水を流しますが、フラッシュ放流により古い藻や川底の堆積物が掃流されるため、水位上昇中は一時的に川が濁ります。
- フラッシュ放流終了時の水位低下後には、川の濁りは元に戻ります。

設備の点検とフラッシュ放流を同時に実施（室生ダム）



利水放流設備（バルブ）による放流（約 $13\text{m}^3/\text{s}$ ）の状況



洪水放流設備（洪水吐きゲート）からの放流の状況

- 平成27年度まで利水放流設備（バルブ）の最大放流能力（約 $13\text{m}^3/\text{s}$ ）を活用してフラッシュ放流を実施していました。
- 平成28年度に引き続き今年度のフラッシュ放流でも設備の点検に合わせ、洪水吐きゲートからの放流（約 $30\text{m}^3/\text{s}$ ）を行います。
- 普段（晴れた日）はあまり見ることのできないゲート放流をご覧いただくことができます。